

真庭市第5次男女共同参画基本計画 (あいプラン・まにわ)

資料

目次 ~大きなかぶの物語に例えて~

●計画の趣旨 計画書P.2 … P.3～

- ・真庭市の少子化・人口減少の状況

●現状と課題 計画書P.3・P.4 … P.8～

- ・インタビューの調査対象
- ・インタビューの概要
- ・男女共同参画の様々な課題
- ・真庭の潜在的な魅力、活力

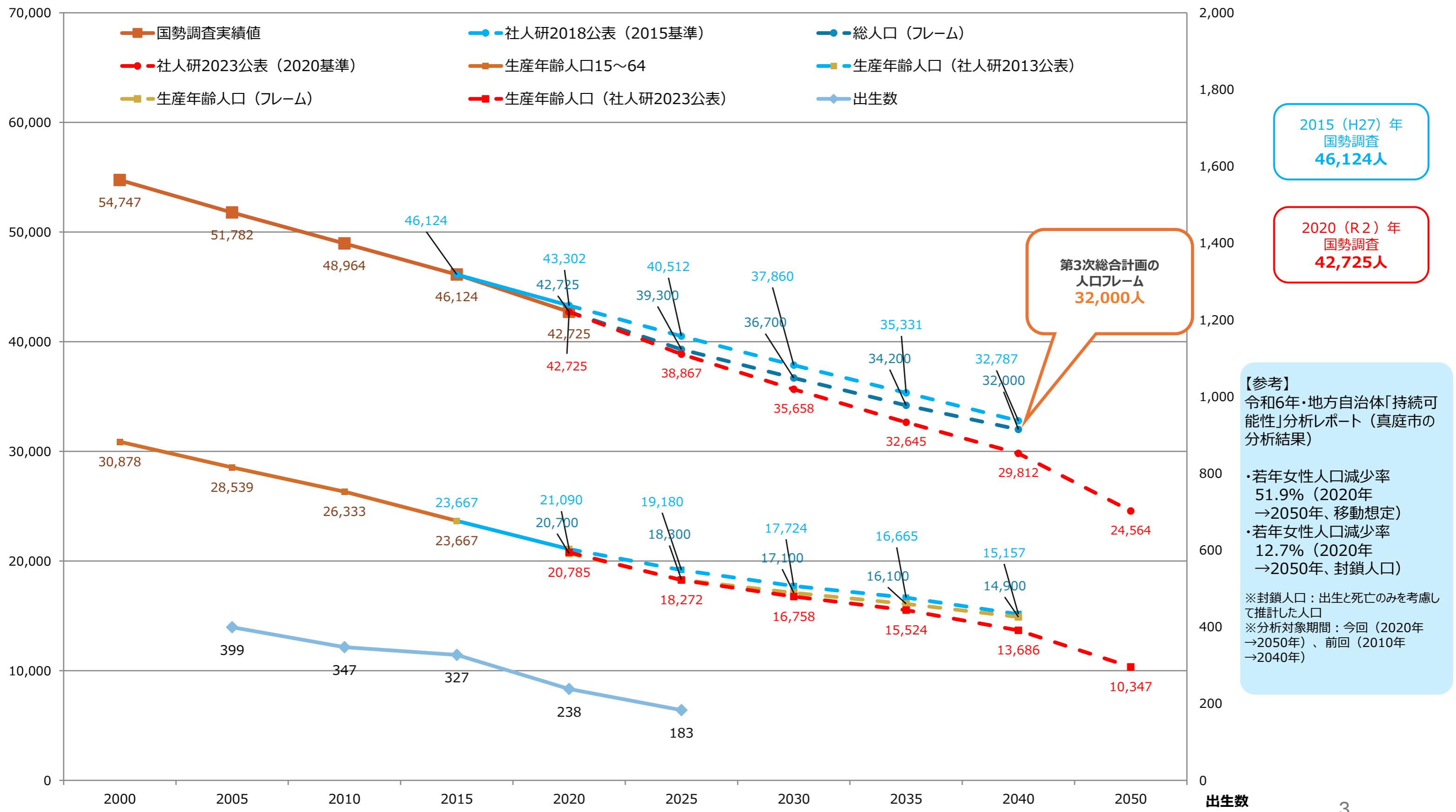
●基本目標と目指す姿 計画書P.5・P.6 … P.18～

- ・真庭の「かぶ」：男女共同参画の目指す姿

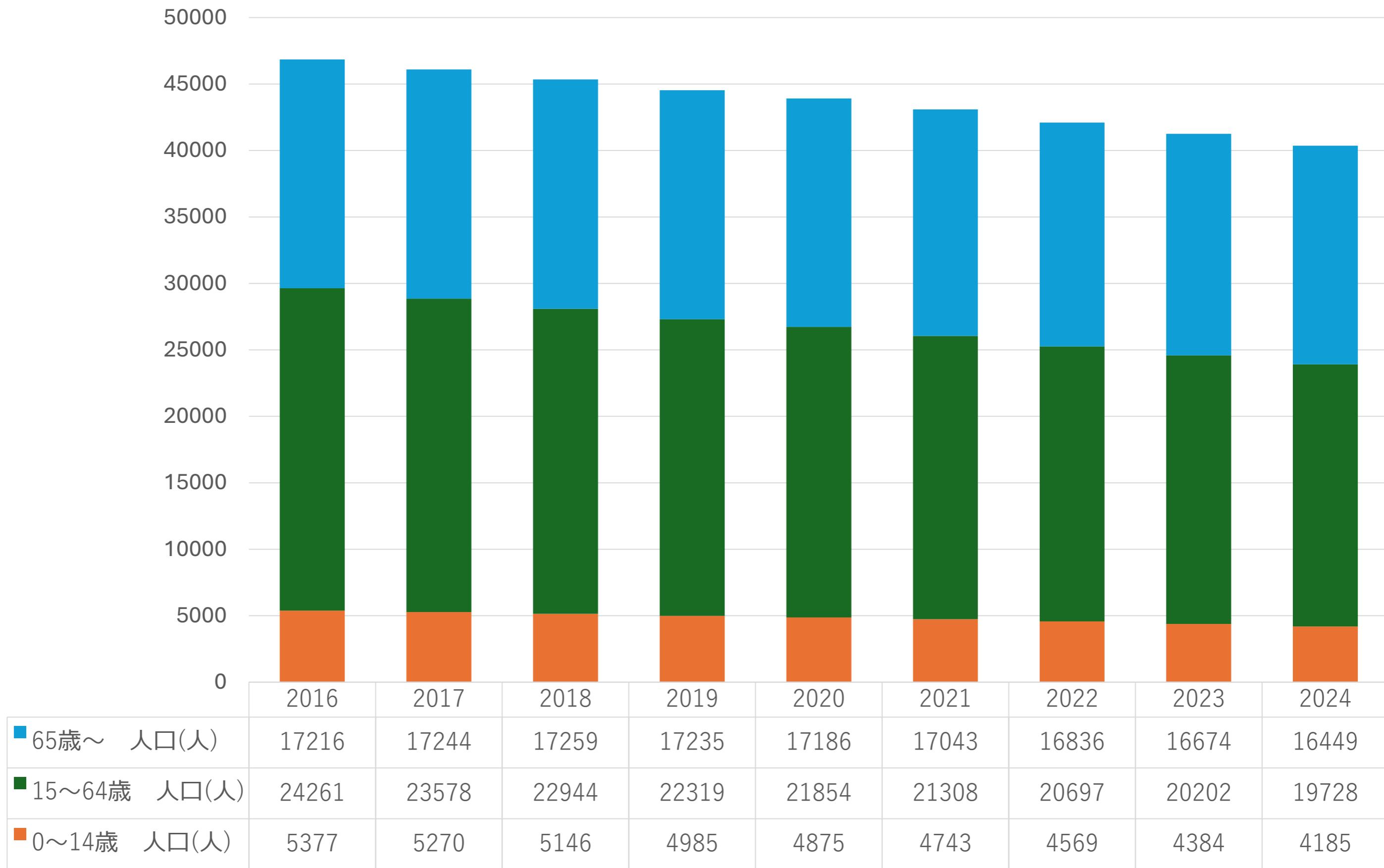
●重点施策 計画書P7・P8 … P20～

●推進体制 評価と見直し 計画書P.9・P10 … P23～

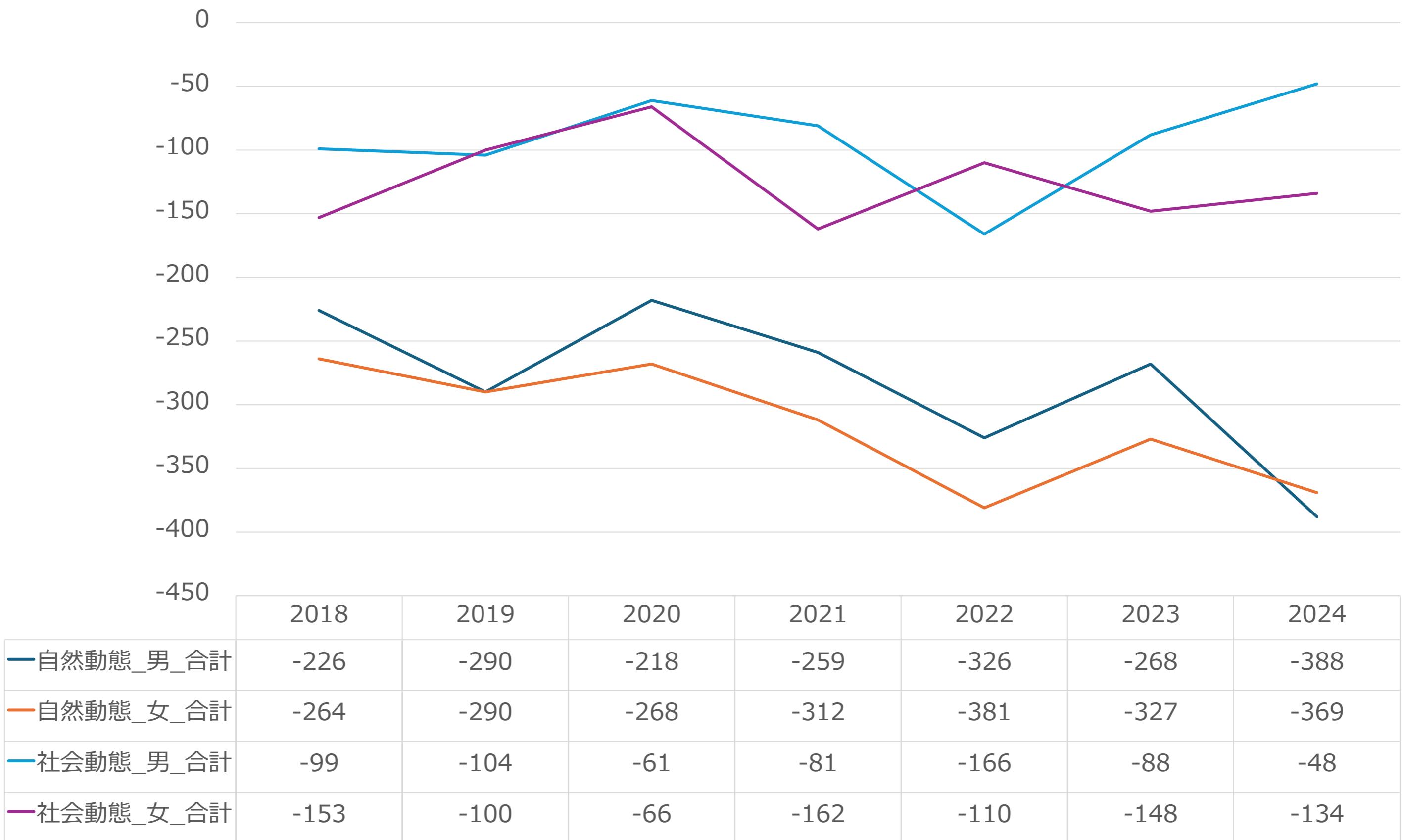
真庭市の少子化・人口減少の状況



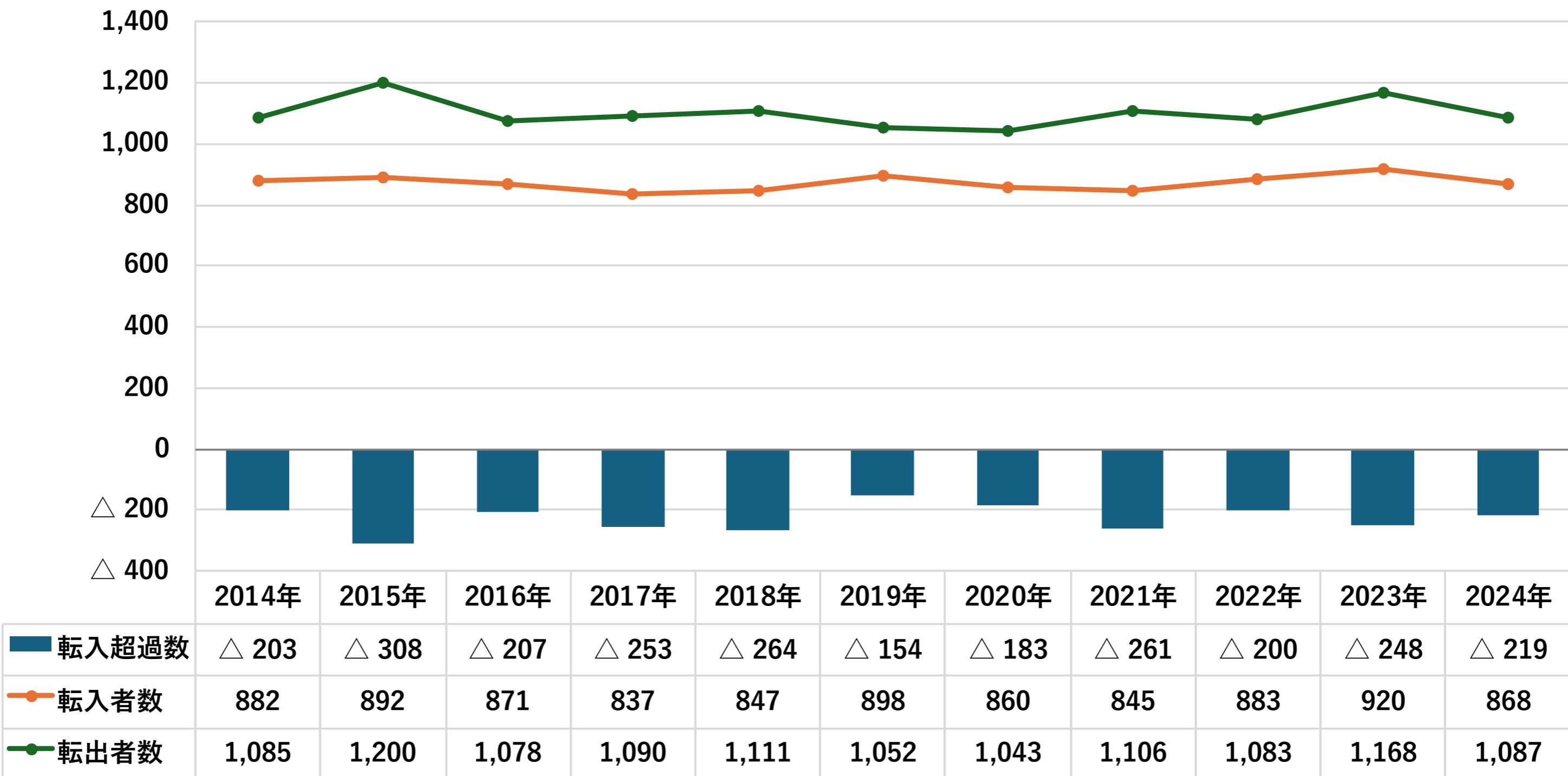
人口及び労働力（住民基本台帳）



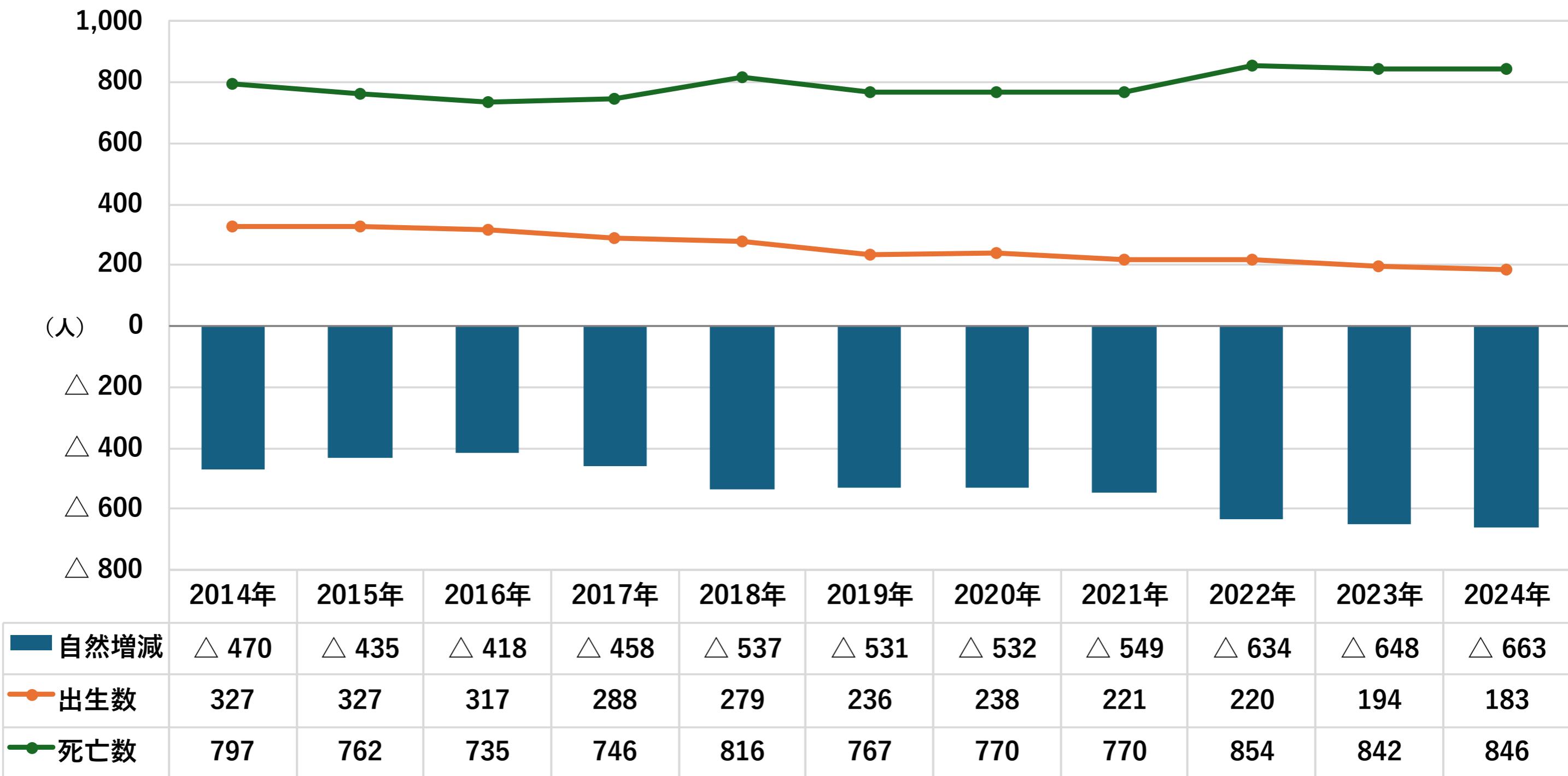
人口動態差引増減 住民基本台帳



転入・転出者数の推移



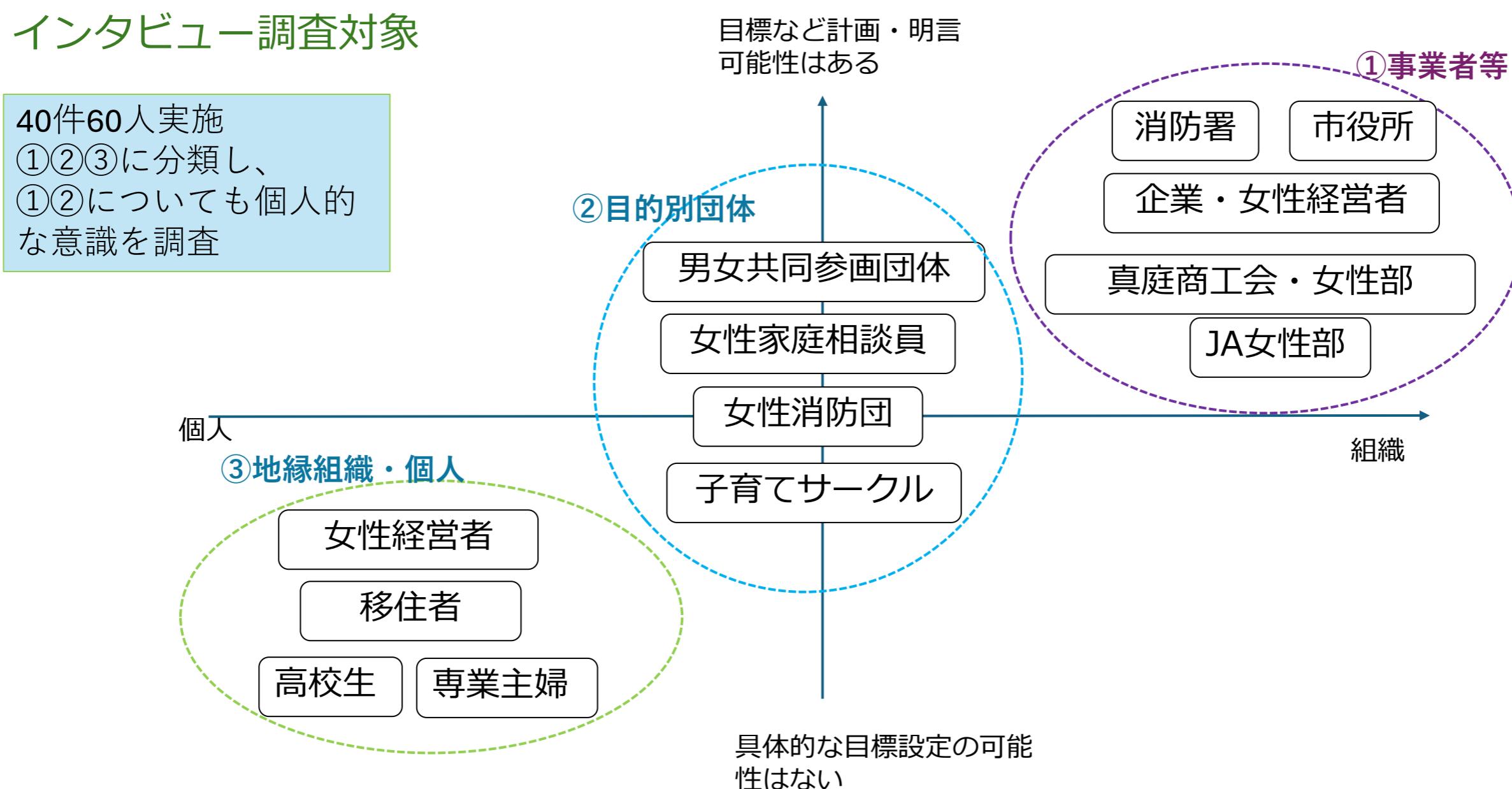
出生数・死亡数の推移



現状と課題

真庭市第5次男女共同参画基本計画に向けて、真庭市の課題を、国自治体等資料情報からの分析、及びインタビュー調査によるナラティブな言説の分析により明らかにすることを目的としました。

インタビュー調査対象



インタビュー概要

◆具体的なインタビュー対象者 60人

10歳代：8人、20歳代：3人、30歳代：9人、40歳代：12人、50歳代：14人、60歳代：10人、70歳代：4人

◆実施時期 (R7.7.30～R7.9.19)

7/30… 個人インタビュー：1人

8/1～8/10 … 個人インタビュー：4人 グループインタビュー：2件（5人）

8/11～8/20… 個人インタビュー：13人

8/20～8/31… 個人インタビュー：9人 グループインタビュー：7件（17人）

9/1～9/19 … 個人インタビュー：4人 グループインタビュー：1件（7人）

◆インタビュー形式

個人インタビュー

グループインタビュー

1時間半から2時間

対面インタビュー、またはオンラインインタビュー（くらし安全課立ち合い参加）

◆インタビューアー（インタビュー実施者）

株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング

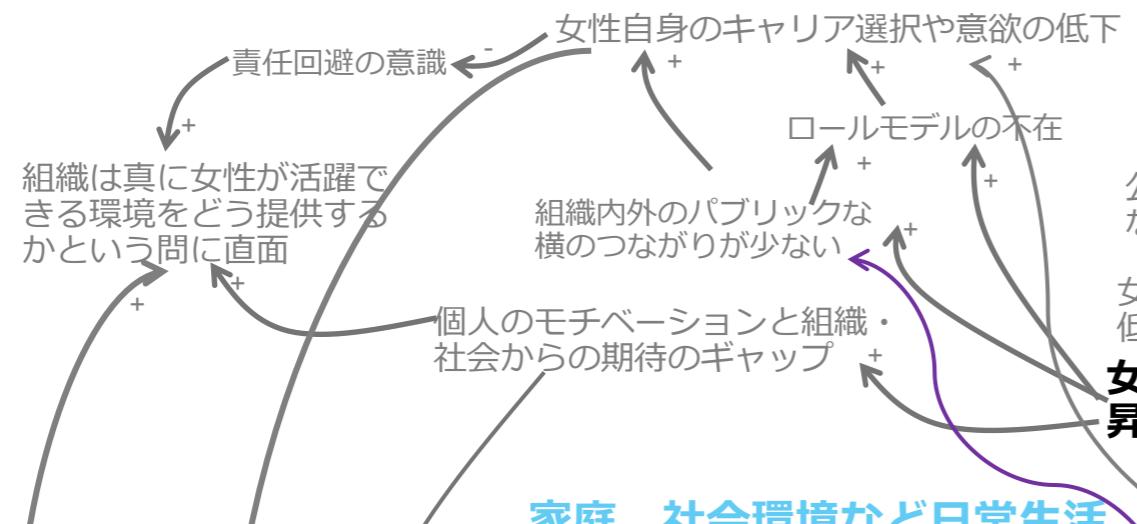
真庭市くらし安全課

課題間のつながり（因果関係）

図の見方

- 矢印が因果関係を示す
矢元が原因、矢先が結果
- +(プラス)マークは「矢元の変数が増えると矢先も増える」「矢先の変数が減ると矢元も減る」
という関係を示す
- (マイナス)マークは「矢元の変数が増えると矢先の変数が減る」「矢先の変数が減ると矢元の
変数が増える」関係を示す

企業など組織



女性の専門性発揮や昇進の機会の制限

女性に対する男性の活動の支援的業務への期待
→ 公式な決定の機会が少ない
→ 女性の成果に伴う評価が低い

→ 女性に対する男性の活動の支援的業務への期待
→ 公式な決定の機会が少ない
→ 女性の成果に伴う評価が低い

家庭、社会環境など日常生活

個人の精神的負担
→ 女性の経済的自立
→ 女性が意見を言いにくい雰囲気を醸成
→ 女性が意見を言いにくい雰囲気を醸成

女性自身、内発的なモチベーションと外部環境とのギャップ
→ 若い女性が地域に息苦しさを感じる
→ 女性の社会参加
→ 女性の活動への理解不足
→ 女性が意見を言いにくい雰囲気を醸成

都市部への若い年齢の流出

→ 都市部にある多様性の理解を求める
→ 都会的な価値観を持つ若い女性の流出を加速
→ 移住者の流出
→ 若者が戻らない
→ 高齢化
→ 地域活動の担い手不足
→ 地域コミュニティの持続可能性

若者・子育て世代

ライフスタイルの多様化
→ 地域全体での子育て支援
→ 家庭との両立支援
→ 子育てと仕事の両立への不安
→ 男性の育児参加への意識
→ 「楽しさ」や「学びの機会」の不足
→ 多様な高校がない
→ 都会と比較して仕事選択がない
→ 交通の不便さ
→ 医療体制への不安

多重の障壁（ハード面、制度面、家庭環境）

無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）

根深い性別役割分担意識

日本の伝統的な組織企业文化

強い地縁ネットワーク

教育現場での具体的なジェンダー意識の醸成不足

家庭におけるジェンダー意識の教育不足

過保護の意識

大人になってからの性差に対する誤解

女性に対する過剰な配慮

地域の監視や噂話 人間関係の濃さ プライベートへの過度な干渉

地域活動への参加強制 (特に男性、そして配偶者)

ミソジー（女性嫌悪）

組織の硬直性や固定観念

完璧な業務と成果を求める社会の風潮

因果関係分析：企業など組織における課題

表層的な問題（現象）

女性の参画機会の不足とモチベーションの低下

女性管理職比率の低さ

団員・職員不足

活動機会の制限

「女性活躍」への違和感

個人の成果が「女性全体」に帰属

メンタルヘルスの課題性

地域活動における男女の偏り

シングルマザーへの古い価値観

中間的な課題（構造・環境）

組織文化と制度のギャップ

組織内の過剰な配慮と機会の制限

「女性活躍」という言葉の先行

ロールモデルの不在

ハラスメント意識の「形式化」

組織のトップダウン型意思決定

地域コミュニティの閉鎖性

女性登用における部署間の温度差

評価制度の不透明性

根本原因

根深く存在する性別役割分担意識と旧来の価値観

年齢層の固定観念

男性優位の社会構造

無意識の偏見
(アンコンシャス・バイアス)

女性自身の「責任回避」傾向

ライフイベントへの配慮不足

キャリアパスの不明確さ

因果関係分析：家庭、社会環境など日常生活における課題

表層的な問題（現象）

若年女性の「息苦しさ」と流出

家庭・地域における男女間の負担の偏り

地域コミュニティの維持困難と孤立（移住者、生活困窮者、DVや子どもの危機）

中間的な課題（構造・環境）

女性の社会参画・キャリア形成を阻む構造

地域活動の担い手不足と世代間ギャップ

生活インフラ・サポート体制の課題

根本原因

伝統的な性別役割分担意識の定着

閉鎖的・同質性の高い地域コミュニティ

都会との情報・機会格差

因果関係分析：若者・子育て世代における課題

【若者の都市部への流出】

表層的な問題（現象）

都会に比べて
交通の便が悪
い

都会に比べ
て学びの機
会が少ない

中間的な課題（構造・環境）

地域におけるエンターテイメン
トや多様な商業施設不足

公共交通網
の脆弱性

進学先の選択
肢の限定性

根本原因

都市部と比較した
真庭の規模による
構造的なサービ
ス・機会の不足

人口減少・高齢
化による公共交
通網の維持困難

地域全体としての
若者のニーズへの
対応力の不足

因果関係分析：若者・子育て世代における課題

【男女の性差認識と教育】

表層的な問題（現象）

大人になってから
の男性の女性への
過剰な配慮

学力における男女差の統
計は基本的に取られてお
らず、現場で特に意識さ
れることもない

中間的な課題（構造・環境）

性差に関する体系的な
教育機会の不足

教育現場における男
女差に関する意識の
希薄さ

発達段階に応じた
性教育の難しさ

根本原因

性差への認識の実態と男女共同
参画社会への移行期における男
女平等意識に対する社会の変化
とのギャップ

性教育に対する社
会全体のコンセン
サス不足

因果関係分析：若者・子育て世代における課題

【子育てと仕事の両立、家族のサポート】

表層的な問題（現象）

育休明けの仕事と子育ての両立に不安といったメンタルヘルスの高い課題性

両親の協力が子育てに不可欠

中間的な課題（構造・環境）

育児と仕事の両立を支える社会制度や職場の理解不足

地域における多様な子育て支援サービスの不足

根本原因

伝統的な性別役割分担意識の根強さ

子育て支援制度の不十分さや周知不足

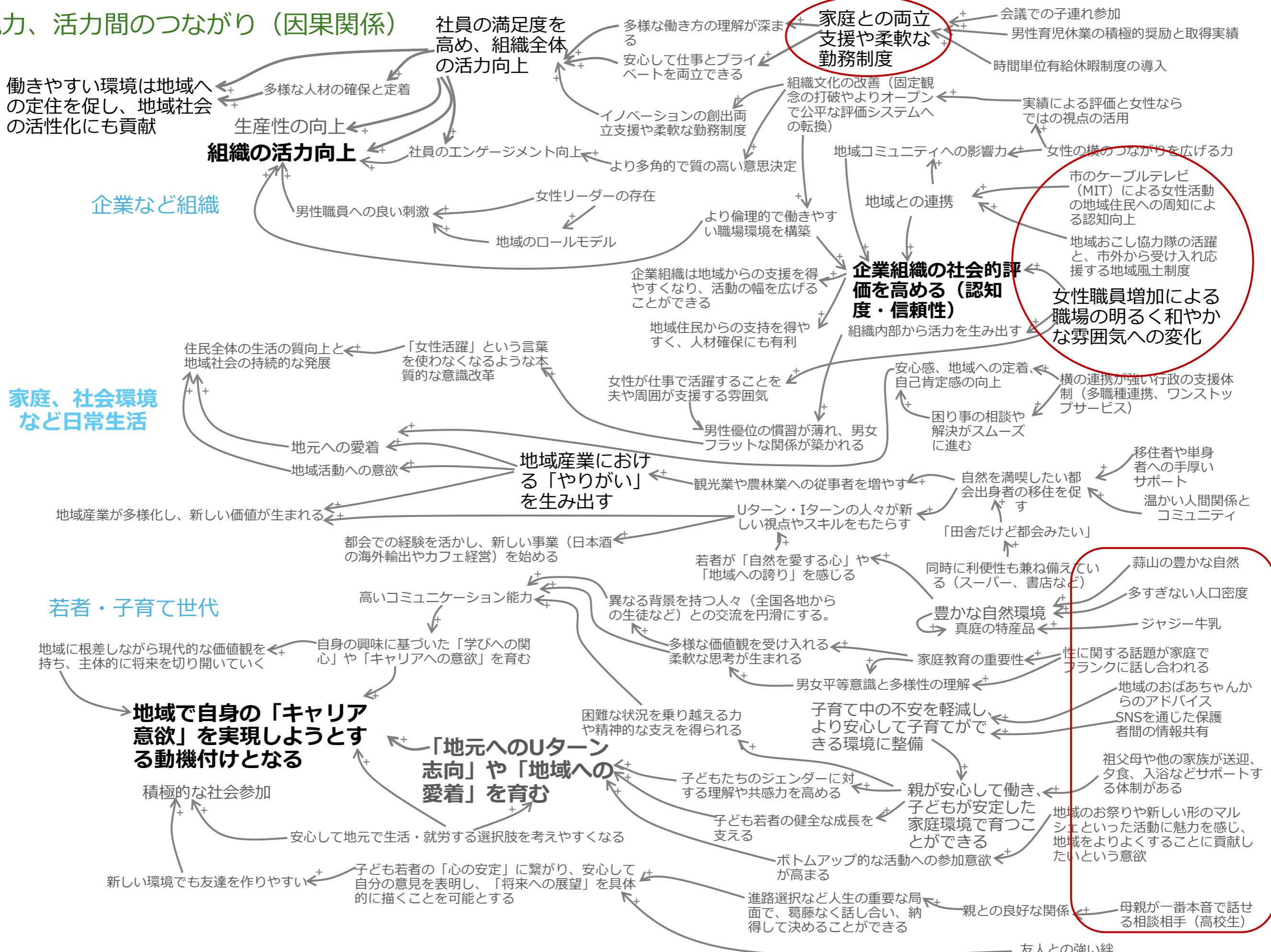
女性が組織において登用されることのメリット

⇒「土の栄養=固まつた土を耕す、緩める、柔らかくするもの」

女性登用について、インタビューでは以下のメリットがあげられました。

- ・ 多様な視点とアイデアの導入につながる
 - ・ 職場の雰囲気の改善と活性化が促進される
 - ・ 地域住民や顧客との関係性強化
 - ・ 組織体制の柔軟化と働き方改革の推進
 - ・ 組織内外からの評価向上とモチベーション向上
 - ・ 物理的な制約への対応と工夫がなされる
-
- The diagram consists of six black text items on the left, each with a yellow arrow pointing towards a large orange circle on the right. The circle contains the Japanese text "土を耕す、緩める、柔らかくする".

真庭の魅力、活力間のつながり（因果関係）



目指す姿

インタビューでは、真庭の生活や自身の現状について、10点満点で点数づけをしていただき、その点数と満点10点に至る改善策を伺いました。その内容から、真庭のめざす姿（かぶ）を分析しました。

（結果）

真庭市は、多様な価値観を認め合い、誰もが自分らしく輝ける「**共創と尊重のまち**」を目指す。

個々人の目指す姿（かぶ）：

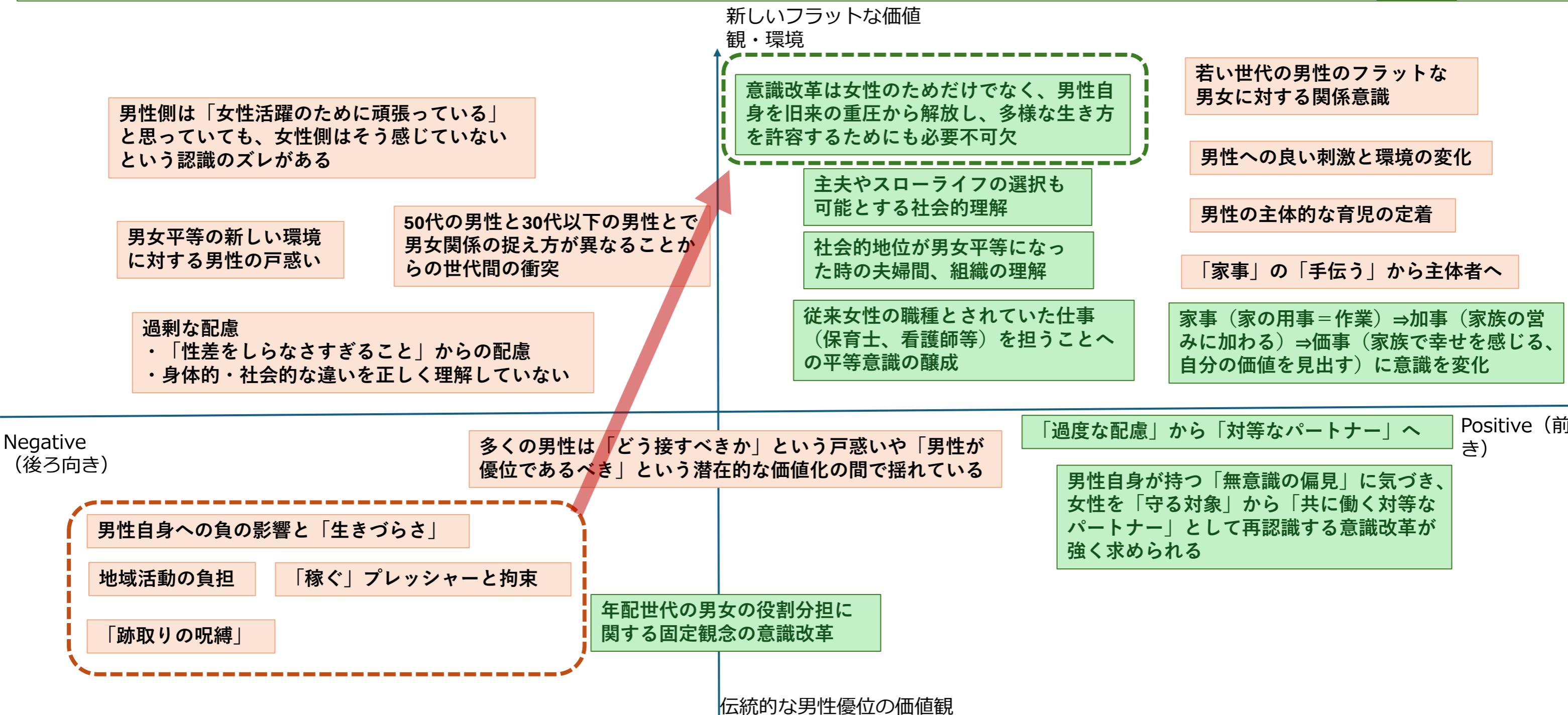
真庭市に暮らす人々が、日々の生活の中で「やりたいことができ」「笑顔で暮らせ」「仕事にやりがいを感じ」「困った時に助け合える」安心で豊かな未来

真庭市の男女共同参画活動を主とする団体は、30年前は、女性が家庭の外へ出ていくことを目標として活動されていたとのこと、しかし、現在の女性は、仕事や社会活動での個人としての生きがいを求めており、男女の性差は理解しつつも、個々人、多様性を重視した啓発の場、機会が重視されるようになっていることがインタビューから分かりました。そこで、真庭市の女性活躍を、単に職業人として活躍することと捉えるのでよいのかなど、あらためて真庭市における「女性活躍」の言葉についてどのように思うか、感じるかをインタビューでは尋ねました。その結果、「女性活躍」の言い換えや再定義が必要であることが分かりました。

男女共同参画社会の男性への影響と意識改革

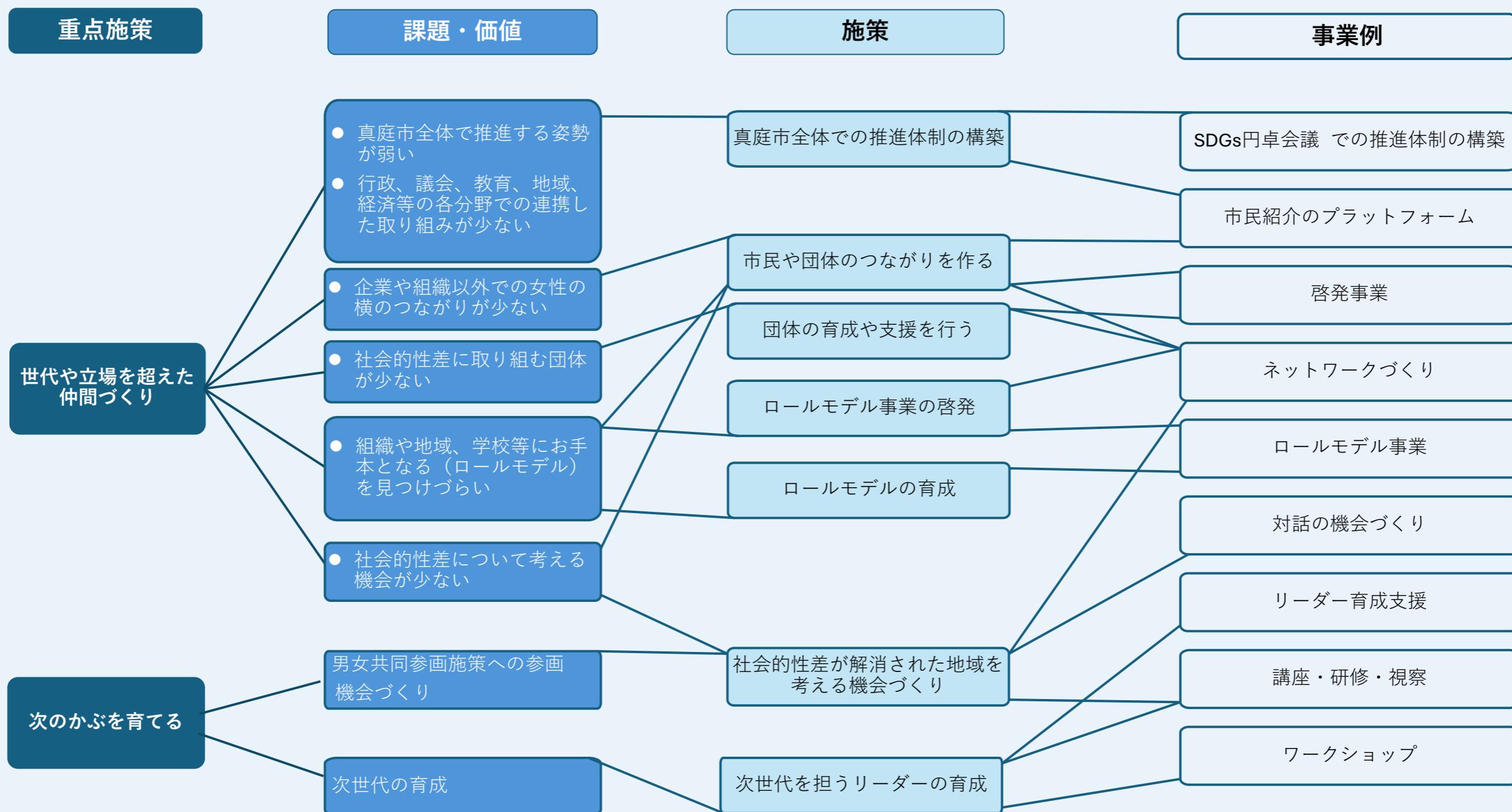
伝統的な男女役割分担の価値観は、男性の生きづらさやプレッシャーも生んでいる。男女フラットな意識改革は男性自身の旧来の重圧から解放する

図のOO：影響と課題 OO：意識改革

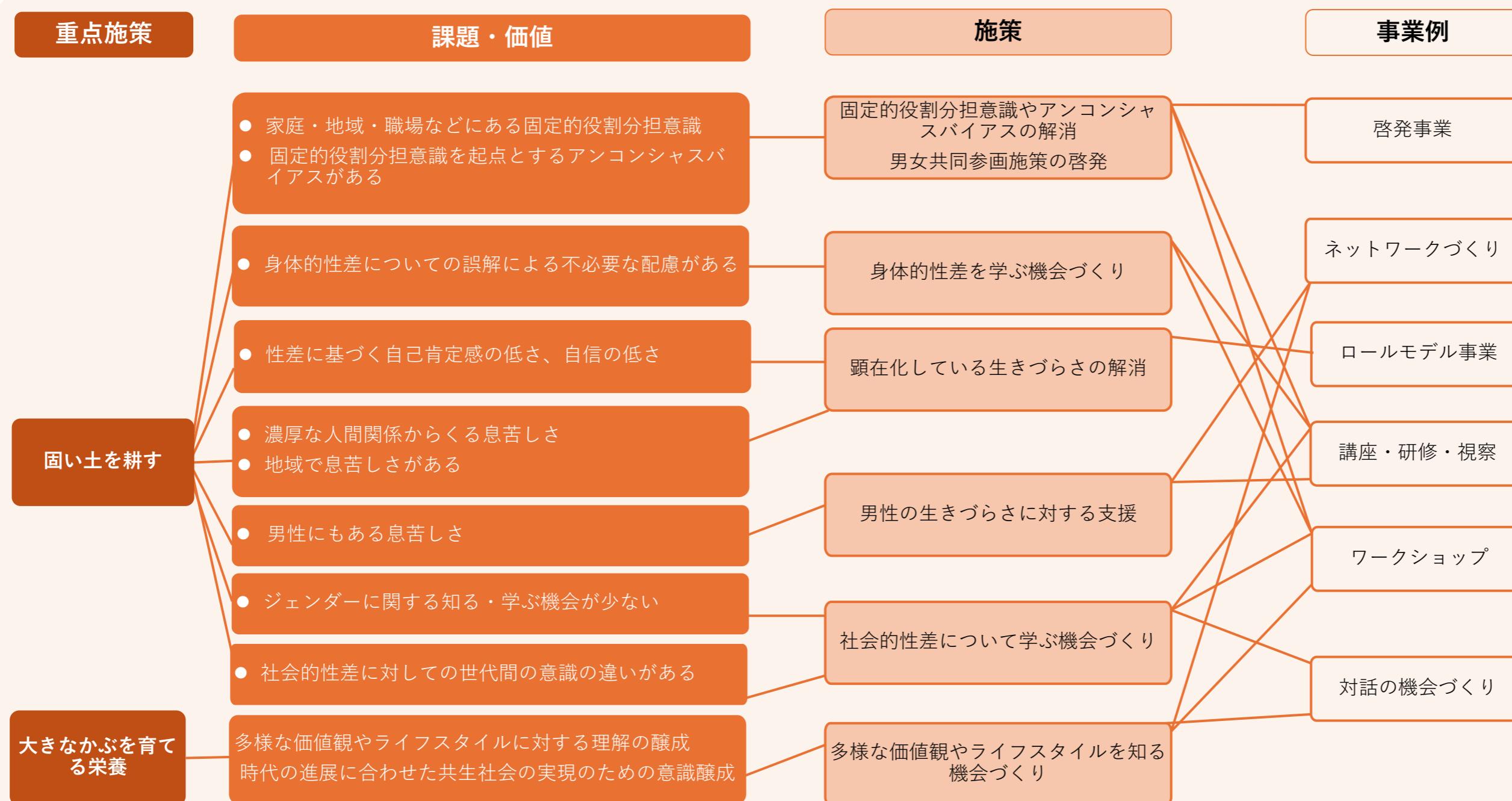


重点施策 整理表

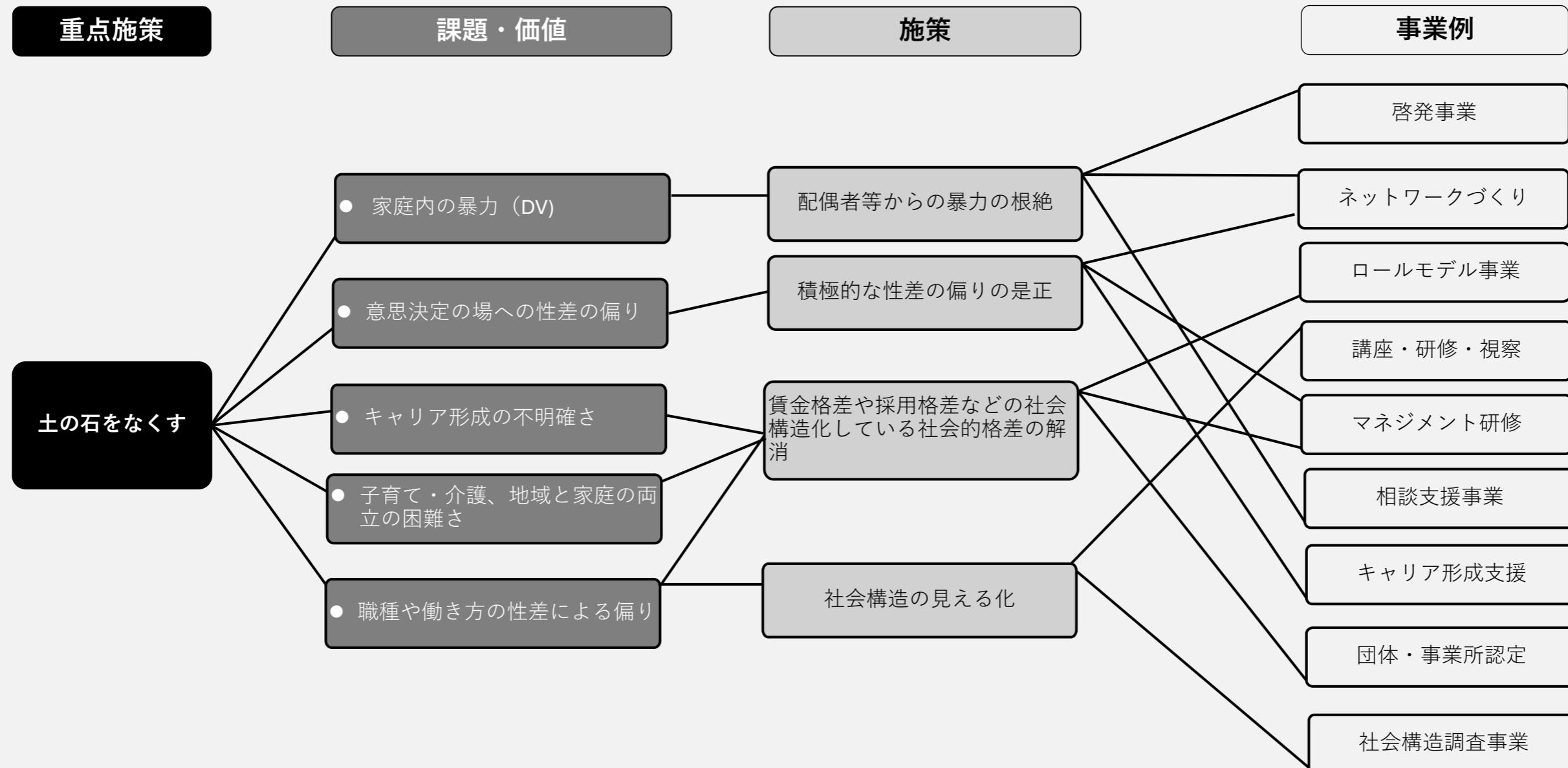
【仲間】人・つながり・協働のしくみ



【土】意識・文化・考え方・慣習



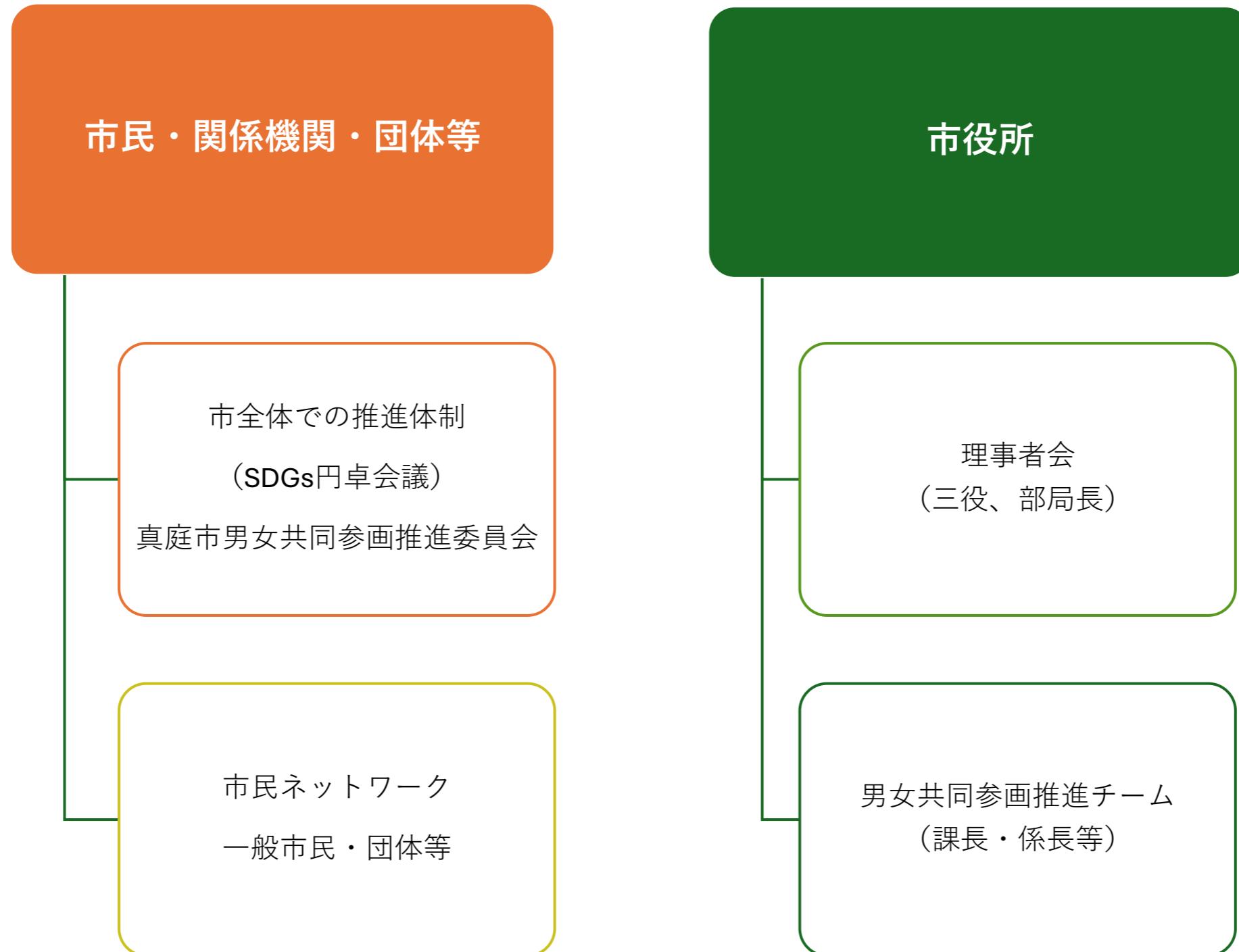
【石】社会の制度・構造、環境



推進体制

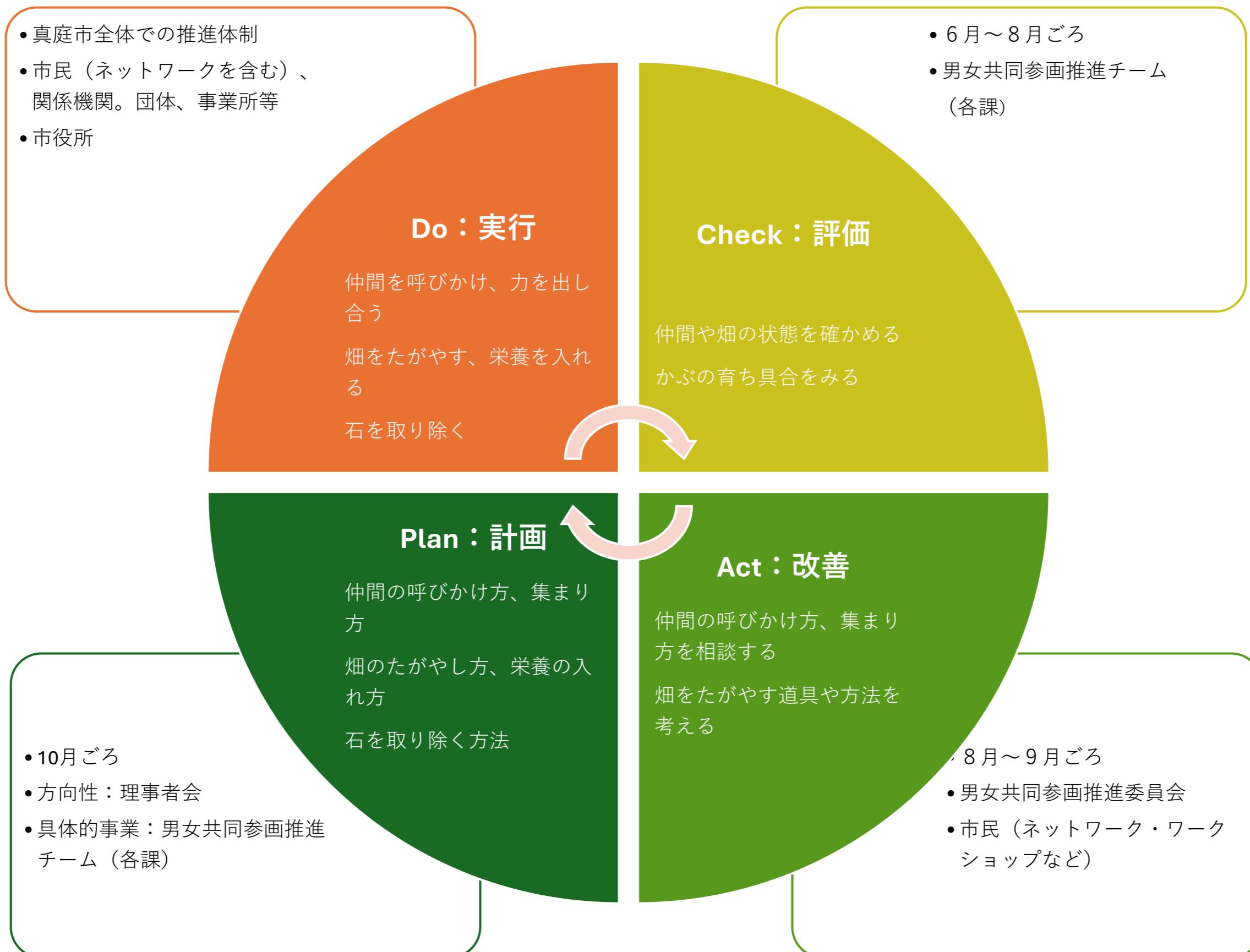
議論全体から、単一の主体や部門だけで地域課題を解決することは困難であり、行政内部の部署間連携、行政と地域住民、民間企業、NPO、さらには多世代の人々との重層的かつ柔軟な連携が強く求められていることが浮き彫りになりました。特に、課題ごとに最適なパートナーを見つけ出し、それぞれの強みを活かしながら、具体的な仕組みやネットワークを構築していく視点が重要であると言えます。

推進体制図（案）



評価と見直し

CAPDサイクル図（案）



成果指標

施策と事業のロジックツリー

文字のみ = 施策

/ = 事業

